

今日のトピック 豪州経済は堅調 (2017年10月)

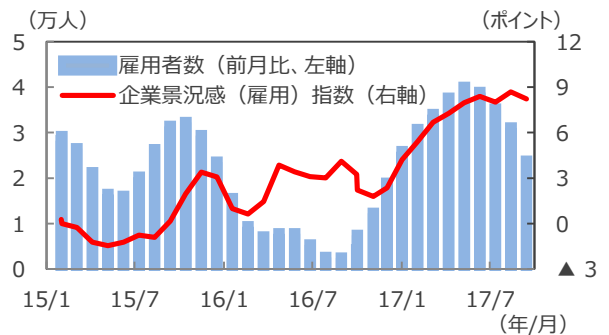
金融政策は中立維持の見通し、豪ドルは堅調に推移しよう

ポイント1 雇用は増勢を維持

家計消費の拡大を支える見通し

■ 2017年9月の雇用者数は前月比2.0万人の増加となりました。雇用者数は月毎の変動が大きい為、振れを均したトレンド値を見ると、同2.4万人の増加となります。失業率を押し下げるのに必要とされる雇用の増加数2万人を、17年は継続的に上回っています。一方、同月の失業率は5.5%でした。14年10月の6.4%を当面のピークに改善を続けています。企業景況感指数が上昇傾向にあり、採用意欲も強まってきたこと等を踏まえると、労働市場の改善は今後も続く見通しです。

【豪州の雇用者数と企業景況感指数】



(注) データは2015年1月～2017年9月。雇用者数はトレンド値。企業景況感(雇用)指数はNational Australia Bank作成。3カ月移動平均ベース。

(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 当面、金利据え置きの見通し

景気は堅調だが、物価が目標に未達

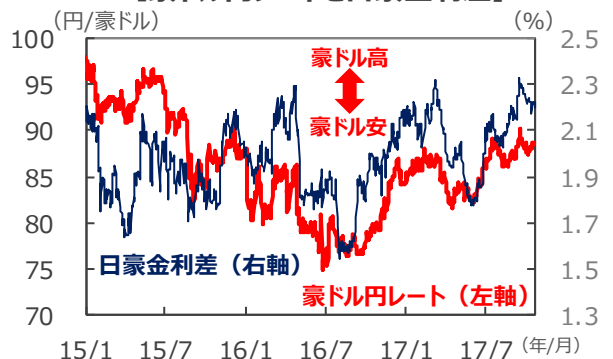
■ 7-9月期の消費者物価上昇率は、豪州準備銀行(RBA)が重視するトリム平均値で見て、前年同期比+1.8%となり、RBAの目標レンジ+2%～+3%の下限を引き続き下回りました。

■ RBAは、10月3日開催の金融政策決定会合で、政策金利を1.50%に据え置きました。雇用は堅調ですが、①足元の失業率が完全雇用に対応する水準と見られる5.2%を僅かに上回っている、②個人消費に勢いが欠ける、③物価上昇率がRBAの目標レンジに到達していない等から判断すると、金融政策は今後も中立が維持される見通しです。

今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

■ 日豪金融政策の方向性の違い、つまりRBAの中立姿勢維持に対して、日銀は緩和姿勢の継続が予想されることに加え、資源価格の安定化が見込まれる等から判断すると、今後も豪ドルの対円相場は底堅く推移すると予想されます。

【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注) データは2015年1月2日～2017年10月24日。金利差は豪州-日本。金利はともに3年国債利回り。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここもチェック! 2017年10月11日 鉄鉱石の価格と豪ドルの動向
2017年10月 3日 豪州の金融政策は13会合連続の据え置き (2017年10月)**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。